

道で仏と逢えば仏を殺せ

無難な道を通り、みんなと同じような動作を行い世間に従って抵抗なく生きながらえていくことが、徳川三百年の封建時代の伝統、これがまだまだ美德であるが如くに思われています。

自分自身を突き放して自分と闘えば、本当の意味の生き方が出来る。厳しさを避けて楽な生き方をしようとする、安易な生き方をしたいときは自分が敵です。

結果が悪くたって、思うように行かなくなつて筋を通したと思えばそんな爽やかなことではないと誰かが言っていた。

信念をもって筋を通す。人と違った言動はその人にとって単に危険というより悪徳、不作法を突きつけたと見なされる空気は村社会の常識だ。

人間の大部分の人々は成功しないのが普通なのである。

しかし挑戦した不成功者と挑戦を避けたままの不成功者とは天地の隔たりがある。挑戦を避けて降りたものに新しい人生はない。人知れず、げろを吐き、幾

夜も寝れない日を過ごしたこともなく、成り行きにまかせの空しい生涯を送るに違いない。

惰性的で危険を避け、無難であることが美德とされるのが今日の一般的なモラルなのである。

このシステムに押さえ込まれてしまった状況では、生きる人間の誇りを取り戻す。

するために、打ち砕かれることを恐れず、ひたすら自分を純粹に打ち出すしかないのである。

純粹であるほど人生は悲劇的だ。人間

はすべて矛盾の中に生きている。だから絶望したら負け、人は落ち込むのです。

自分の力で、一人で立ち上がるしかないのだ。



補足ー仏とは己のことで

税務当局・調査担当者は、調

います。

査期間を長引かせる等の駆け引きを駆使、また担当者の意識の劣化、調査能力不足が、更正処分をできない仕事を積み上げ、修正申告の勧奨(権利放棄)を繰り返す。担当者は

権力乱用が日常化、自利のため強大な国家権力(質問検査権)に隠れ国民の人権を犯し、言いがかりの権力行政を行つて

坂の上のバカ

で言う国

務署の現場執行を補強し、被害者は法務大臣を相手に医療費請求等を提訴し、現在、金沢地裁で公判中です。



現場の国家権力執行に対し

近年でも金沢不服審判所でさえ、担当審判官が暴言を吐き恫喝を行い、不法な金沢税

て、証拠をICレコーダーに保存し権力に対峙しなければならない。担当者は何様のつもりなのか、

金沢局では不遜な職員が存在する限り、社会

が戦うことが憲法のため

民の義務と考える今日この頃なのであります。

なぜ正直者が得をするのか

得をしようとするほど得から遠ざかる。

すなわち、得するのは正直者であり、利己主義者は結局は最終的に敗北をせざるを得ないのです。

正直者の動機は損得勘定にみえる行動の裏側に、全く別物の動機が思いが潜んでいる。

正直者が最終的に馬鹿を見ることはないのである。

幸せは正直者に訪れ、利己主義者には不幸しか訪れない、証明の過程です。